

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援ベガサス・児童支援ベガサス個別療育プログラム教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間の清潔さや構造化された環境について、保護者から高い評価を得ている。	支援前後の打ち合わせや記録を通して、職員間で子どもの様子や支援内容を共有している。	職員による支援の質にばらつきが生じないよう、定期的な研修や事例検討を行い、支援方法や関わり方について共通理解を深めていく。
2	子どもの特性やその日の状態に応じた柔軟な対応が行われており、安心して通所できる環境が整っている。	個別活動と集団活動を組み合わせ、社会性や自己決定力の育成を意識した支援を行っている。	送迎や支援体制について、利用人数や子どもの状態に応じた職員配置を検討し、安全で安定した支援体制の維持に努める
3	放課後等デイサービス計画が保護者の意向を踏まえて作成され、計画に沿った支援が継続的に行われている。	子どもが自ら選択できる場面を設け、主体性を尊重した関わりを大切にしている。	子ども一人ひとりの発達段階や特性、学校生活の状況等を踏まえ、放課後等デイサービス計画の内容を継続的に見直し、より適切な支援の提供に努める。
4	活動プログラムが定期的に見直され、子どもたちが意欲的に参加できる工夫がされている。	学校や関係機関と連携し、子どもの状況に応じた支援が行えるよう努めている。	家族支援の充実を図るため、家庭での関わり方に関する助言や情報提供を行うとともに、保護者同士の交流機会についても検討していく
5	連絡帳や公式LINE、送迎時のやり取り等を通じて、保護者との情報共有が丁寧に行われている。	避難訓練や感染症対策等を定期的を実施し、安全意識の向上を図っている。	避難訓練や防災訓練を継続的に実施し、非常時にも子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数の増加に伴い、時間帯によってはスペースが狭く感じられる場面がある。	利用児童数や支援内容の多様化により、職員配置やスペース活用に工夫が求められている。	職員研修や事例検討を通じて、支援の質の均一化と専門性の向上を図る。
2	送迎を担当できる職員が限られており、配置調整が必要な場合がある。	管理者が中心となって行っている業務が多く、職員全体での関与が限定的になっている部分がある。	利用人数や子どもの状態に応じた職員配置やスペースの工夫を検討していく。
3	家族支援プログラムや保護者同士の交流機会が十分とは言えない。	感染症流行等の影響により、地域交流や保護者参加型行事の実施が制限されていた。	家庭での関わり方に関する助言や情報提供を充実させ、家族支援の強化を図る。
4	地域交流や他事業所との交流について、機会が限られている		学校や関係機関、地域との連携を継続・強化し、子どもの成長を多方面から支える体制づくりを進める。
5	外部評価や第三者評価の活用が十分でない。		各種マニュアルや安全計画について、職員・保護者双方への周知を強化し、安全で安心な支援環境を維持する。